

2年 生活科「としょかんのひみつ大はっけん」討議・授業づくり研修

◆◆ 本時の授業について

※本時の実践内容については「5/29授業の様子」をご参照ください。

◆◆ 授業後の討議会(14:30～15:10)

■ 観点: 情報活用能力と主体的な学び

授業後の討議会では、まずは学年＋SEから取組のお話がありました。

■ 学年より

2年1組は、多様な子どもたちが在籍する学級です。支援が必要な児童、日本語を母語としない児童など、さまざまな背景や学びの特性をもつ子どもたちがともに生活している。この学級の良さは、温かく仲間を助け合おうという意識が高いこと。

今年度の学年テーマは「ひみつを発見」。身の回りの中にある“ふしぎ”や“工夫”に目を向け、自分の言葉で表現しようとする力を育てたいという思いで取り組んでいる。

一方で、子どもたちは「話す」ことには意欲的だが、「書く」ことに対しては苦手意識をもっている子も少なくない。そこで、国語科を土台に「話しあう」「伝える」「聞く」などの基本的な情報活用の力を伸ばすことを大切にしながら、特に「書く」ことの力も伸ばしていきたい、とのお話でした。

(反省点)

①子どもたちは、伝え方に意識が向きがちで、「何を伝えたいか」を重視する視点が薄れがちになるため、教師が意図を明確に提示する必要がある。

②活動のボリュームが多かった(動画の録画、話を聞く、伝える、メモをする)ため、次に何をしたらよいか迷う子もいた。モデルを見せる、活動を減らすことも大事。ただ、メモ・書くことも大事にしていきたいため、今回取り入れたことにも意味があった。

(学び)

①年間計画の重要性…教師の教えすぎ、やりすぎを防ぐために、年間計画を立て、各授業で何を大切にするかを明確にすることが重要。

②教師の型と子どもの主体性のバランス…どこを子どもに委ね、どこを教師が型やモデルを示すか、そのバランスを意識することで、子どもの主体的な学びを支えることができる。

■ 討議(低中高)での意見

✓ 良かった点(青色)

① すべての子に役割と活躍の場があった

- 支援が必要な児童もそれぞれ友だちと助け合いながら活動できていた。
- 「どの子もいきいきと」「自然な声かけと協力の雰囲気」が印象的だった。

② 動画を通して“振り返る力”が育まれていた

- 自分たちの発表を客観的に見て、伝え方を改善しようとする姿があった。
- 相手意識が高まり、伝える意欲が高まっていた。

③ 教室全体が温かい空気に包まれていた

- 子ども同士のコメントや声かけが優しく、安心して活動できていた。
- 教師のていねいな声かけがベースになっていた。

◆◆ 改善点（赤色）

① 時間配分に偏りがあり、後半のグループの活動時間が少なかった ●

- 先のグループは動画とフィードバックができたが、後半は時間切れに。
- 振り返りの時間が十分に取れなかった。

② 活動のねらいや進め方が見えにくい場面があった

- 「今なにをやる時間？」と迷う子どもがいた。
- ゴールや流れをより視覚化して示すとよりスムーズだった。

③ 動画に集中しすぎて本来の目的がぼやけた

- 動画撮影に夢中になりすぎて、活動そのものが中断気味になった場面があった。
- 「伝え方を改善する」こととのバランスを取る必要がある。

高

チーム同士での交流の仕方がよくわかっておらずに、何をしたらいいのかわからない子が多かったので、モデルを提示してもよかったのかなと思いました。

先生もおっしゃっていましたが、今すべきことがなんなのだろうとなった時間が多かったです。

学習の重点が何かが、ばやけた。
アウトプットがメインか？
学び方の振り返りがメインか？

やることが多く、実際する際に何をやるかで戸惑っている児童が多くみられた。

サポートを要する子どもへの手立てに関して、特に自由度の高い学習は、声掛けのみではサポートできません。支援の視点からも、支援の先生やフレンドの先生も巻き込んで授業づくりをすべきです。

動画を撮ることで伝えられたことをしっかりと聞き直すことができたのでよいと感じた。

動画を撮ることで自分たちの姿が客観的に見られるのが、振り返りに最適だなと思った。

助け合いながら作業を進める姿がたくさん見られました。

指導者のあたたかい声かけのおかげで、安心して授業に参加することができた子がたくさんいたと思います。

子どもたちが終始温かい空気で学んでいたのが、安心しました。

子ども同士で、良かった点を話し合うことができていた
「〇〇良かったと思うねん。」「私もそう思う。」

子どもたちが一生懸命相手に伝えようとする姿がみられた。

撮る側も発表する側も子どもたちの発言を見ると丁寧にしていたので、ここまで先生方が目の前の子どもたちに合わせて丁寧な指導をしていたのを感じました。

中

板書

ふりかえりの板書が分かりやすかった

板書が見やすい

次につながる振り返りができていた。

撮影するスキルが高い

情報機器能力が高かった。

子どもたちは総じてやる気いっぱいでした。

発表を動画に撮ることで相手意識を持って取り組んでいた。

発表が堂々としていた。

最後の振り返りカードをチームで書く際に主体的に書く子とぼーっとしている子に分かれていた

情報量が多すぎて、じんどい子もいた。

動画を撮ることに注力して時間が過ぎてしまった。

バッテリーがなくなった児童とクローム忘れ？でうまく進まず子どもたちはもやもやしていた。

アドバイス

アドバイスを力を入れるために動画はなくてもよかったのかなと思いました。

アドバイスの動画はなくてもよかったのでは。

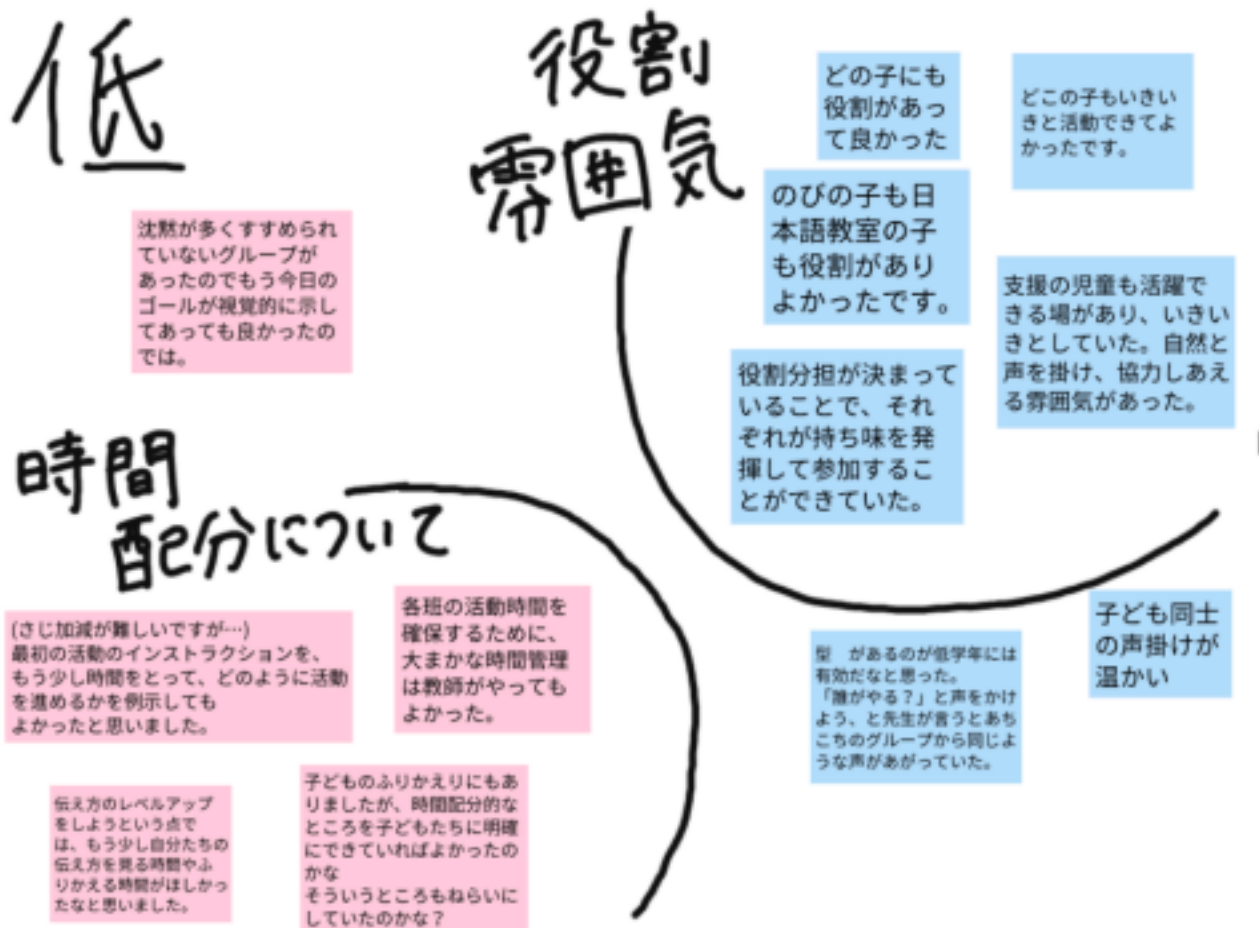
声の大きさなどのスキルについてのアドバイスが多かったので、どんな秘密を知れたかの視点があればよかったのでは。まだ難しいので今後、子どもたちが自主的に気づけたいと思います。

ふり振り返り
同じです。

$\frac{63}{8}$

ス
キ
ル
児
童

旧
児
童



- 6年生でも、今回の2年生の授業実践でも、これまで多くの経験値があるベテランの先生方が率先して子ども主体の授業チャレンジをされていることのすごさ！
→全体としてチャレンジしやすい！！
- はじめての授業でカンペキを求めない。授業の終末に子どもたちへのメッセージでもあったが、改善点や学びを次なる学習に生かしていく大切さ。今回の反省点や学びを校内全体が活かしていけること。
→失敗をおそれず、どんどんチャレンジしていこう！！

■ 学年チームごとに授業づくり

- それぞれのチームに分かれて、今後の授業づくり、単元構想を話し合いました。時間いっぱいまでそれぞれの先生方が熱心に話し合われる姿を見て、ますます頑張っていこうと思えた時間でした。